秋季セミナーのご案内

東京矯正歯科学会　　会長　小野　卓史

秋麗の候，会員の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて，本年も2026年度東京矯正歯科学会秋季セミナーを開催する運びとなりました。今回のセミナーでは，臨床現場において非常に重要なテーマである「歯科矯正用アンカースクリュー」に焦点を当てて開催いたします。本学会におきましては，過去においても同様のテーマで活発な議論が交わされてきたきわめて重要な領域です。しかしながら，近年のデジタル技術の進歩は目覚ましく，この分野を取り巻く環境は急速な進化を遂げています。そこで本セミナーでは，かつて議論したこのテーマをあえて今，改めて再訪し，近年の学術的・臨床的進歩を再評価・共有することを趣旨といたしました。今回のセミナーでは，この分野を牽引する3名の著名な講師の先生方をお招きし，それぞれの切り口から最新の臨床展開についてご講演いただきます。

まず，日本大学特任教授の本吉満先生には，口蓋正中部に埋入したアンカースクリューに着脱可能なアーム状口蓋側固定装置「パラタル・レバーアーム」を用いた，低侵襲で効果的な上顎歯列全体の移動システムについてご講演いただきます。従来の外科的アプローチを伴うプレート型アンカーと同等の強力な固定源を，よりシンプルかつ低侵襲に獲得する臨床的なアプローチとその安全性について解説していただきます。次に，医療法人丹心会大谷歯科矯正歯科理事長の大谷淳二先生には，デジタル植立シミュレーションを単なる「安全な植立のためのツール」にとどめず，治療全体における「三次元的力学システムを正確に設計・再現するためのDXの基盤」として捉える新たな臨床パラダイムを提示していただきます。アライナー矯正治療におけるコンプライアンス依存の軽減や大臼歯遠心移動など，具体的な治療予測性を高めるためのデジタル活用の真髄に迫ります。そして，ドイチェ矯正歯科・大宮の山口修二先生には，本場ドイツでの矯正歯科治療のご経験を背景に，アンカースクリューと金属積層造形技術，さらにはスライディングメカニクスを融合させ，従来困難であった確実な歯体移動を実現する最新の治療装置についてご講演いただきます。3名の先生方には矯正歯科治療の可能性をさらに広げ，患者の協力に依存しない強固で効率的な次世代のメカニクスシステムをご提示いただきます。

かつての歯科矯正用アンカースクリューを用いた治療は，単に「骨性の頑強な固定源を得る」という段階にありましたが，近年の進歩は，CAD/CAMや3Dシミュレーション，金属積層造形技術といったデジタル技術との高度な融合により，「術者が頭の中で描いた理想的なメカニクスを，正確に口腔内で設計・再現する」という全く新しい次元へと突入しています。このように，最先端のデジタルテクノロジーと臨床知見が有機的に結びついた「スケレタル・アンカレッジにおけるイノベーションと矯正歯科のデジタルトランスフォーメーション（DX）」は，現代の，そしてこれからの矯正歯科治療の未来設計図をアップデートするきわめて重要な鍵となるように思います。その意味で本セミナーは，テクノロジーがもたらした目覚ましい進化を「再訪」し，新たな治療水準へのステップとするためのきわめて貴重な機会になるものと確信しております。

会員の皆様におかれましては，万障お繰り合わせの上ご参加いただき，実りある学びと活発な情報交換の場としていただけますようお願い申し上げます。最後になりますが，ご多忙の中，ご講演を快諾いただきました講師の先生方，ならびに本セミナーの開催準備に尽力されました中納治久学術委員長をはじめとする学術委員会の先生方に心より御礼申し上げます。

日本矯正歯科学会認定医の方は，当日，IDカードをお持ちください。
セミナー参加者は，５単位が付与されます。



有楽町朝日ホール
スクエア
ギャラリー

（有楽町マリオン11階）（Tel.03-3284-0131）
〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-5-1（Fax.03-3213-4386）

今後のご案内

●2027年春季セミナー
日時：2027年４月８日（木）
会場：有楽町朝日ホール

●第86回東京矯正歯科学会学術大会
日時：2027年７月８日（木）
会場：有楽町朝日ホール

詳細は決まり次第学会ホームページに掲載いたします

東　京　矯　正　歯　科　学　会
〒170-0003　東京都豊島区駒込1-43-9
一般財団法人口腔保健協会内
TEL 03-3947-8891　FAX 03-3947-8341

2026年
東京矯正歯科学会
秋季セミナー

歯科矯正用
アンカースクリュー

モデレーター：中納　治久　学術委員長

講　演　者：本吉　満　先生
（日本大学歯学部歯科矯正学講座 特任教授）

大谷　淳二　先生
（医療法人丹心会大谷矯正歯科 理事長）

山口　修二　先生
（ドイチェ矯正歯科・大宮 院長）

日時：2026年11月19日（木曜日）
18：00～20：10
場所：有楽町朝日ホール

会費：会員　無料　　非会員　¥3,000

本吉　満（日本大学歯学部歯科矯正学講座 特任教授）



1984年　日本大学松戸歯学部卒業
1990年　歯学博士（日本大学歯学部）
1996年　米国アラバマ州立大学歯学部客員研究員
2004年　日本大学歯学部歯科矯正学講座講師
2008年　日本大学矯正歯科学会専門医（現 臨床指導医）
2009年　日本大学歯学部歯科矯正学講座准教授
　　日本矯正歯科学会医療問題検討委員会
　　矯正用インプラントアンカーガイドライン策定委員
2016年　日本矯正歯科学会認定医委員会委員
2018年　日本大学歯学部歯科矯正学講座主任教授
　　日本大学歯学部付属歯科病院副病院長
2020～2022年3月　東京矯正歯科学会学術委員長
2022～2024年3月　東京矯正歯科学会会長
2025年　日本大学歯学部歯科矯正学講座特任教授
2014，2015，2017年　日本矯正歯科学会大会優秀発表賞受賞
2016年　第1回日本歯科矯正用アンカースクリュー研究会最優秀発表賞
「新矯正歯科治療論」「歯科矯正用アンカースクリューの基礎と実践―安全な植立と臨床応用例―」「テンポラリーアンカレッジデバイス（TAD）による矯正歯科治療」など

パラタル・レバーアームを固定源とした矯正歯科治療

近年，埋入部位の制約が少ない小径の歯科矯正用アンカースクリュー（以下，アンカースクリュー）が開発され，歯の移動における固定源として広く普及しています。

このアンカースクリューは，現在では矯正歯科臨床に欠かせないデバイスの一つとなっており，外科的侵襲がきわめて小さく，患者負担を最小限に抑えられるという利点があります。一方で，歯根間に埋入する場合には，歯の移動に伴ってアンカースクリューと歯根が干渉し，歯列全体の移動が制限されることがあります。そのため，従来は歯列全体を移動させる症例に対してプレートタイプアンカーが用いられてきましたが，外科的侵襲が大きく，患者負担が無視できないという課題がありました。

そこで当講座では，低侵襲で上顎歯列全体の移動を可能とする装置として，口蓋正中部に埋入したアンカースクリューに着脱可能なアーム状口蓋側固定装置「パラタル・レバーアーム」を積極的に使用しています。本装置は，スクリュー頭部に固定するクリップ機構と，左右へ延びるアームからなるシンプルな構造を有しています。アームを屈曲・調整することで，任意の位置から牽引力を付与でき，プレートタイプアンカーと同等の力学的効果を，より低侵襲に得ることが可能です。本講演では，本装置を用いた症例を供覧し，その有用性ならびに使用時の注意点について述べたいと思います。

一方，近年はマウスピース型矯正装置や舌側矯正などの普及により，矯正治療の選択肢は大きく広がっています。それに伴い，多様な治療法に対応するための知識と技術の習得がこれまで以上に重要となっています。本講演では，アンカースクリューの安全かつ確実な埋入手技に加え，パラタル・レバーアームの特徴，失敗を防ぐためのポイント，ならびに臨床における具体的な活用法について臨床例を通して考察したいと思います。

大谷　淳二（医療法人丹心会大谷矯正歯科 理事長）



2001年　愛知学院大学歯学部卒業
2005年　広島大学大学院医歯薬学総合研究科歯科矯正学講座修了 歯学博士
2007～2013年　広島大学大学院歯科矯正学講座助教
2009～2010年　University of California San Francisco, Dept. of Craniofacial Anomalies, Visiting Professor
2013年～現在　医療法人丹心会大谷歯科矯正歯科理事長
2017年～現在　世界インプラント矯正歯科学会理事
2018年～現在　愛媛大学医学部附属病院歯科口腔外科非常勤講師
2023年～現在　日本顎変形症学会評議員，認定医制度委員

矯正歯科治療におけるDX化とは～歯科矯正用アンカースクリューの植立ガイドが担う新たな役割～

近年，デジタルトランスフォーメーション（DX）の進展により，矯正歯科治療における診査・診断，装置設計，治療計画の立案は大きく変化している。歯科矯正用アンカースクリュー（OAS）においても，CBCTやIOSを用いた三次元的な植立シミュレーションとCAD/CAM技術によるサージカルガイドの活用は当たり前になりつつある。しかし，その目的を単に「安全な植立位置を決定すること」にとどめては，DXの可能性を十分に生かしているとはいいがたい。

OASの植立位置や方向は，その後に付与される矯正力の作用線や方向を規定し，治療結果の予測実現性に直接影響する。したがってデジタル植立シミュレーションは，術者が意図するフォースシステムを治療開始前に三次元的に可視化し，それを実際の口腔内で再現するための「治療設計」の一部として捉える必要がある。

本講演では，これらの力学的・診断学的概念を踏まえ，ワイヤー矯正およびアライナー矯正における固定源設計について提示する。特に，上顎大臼歯の遠心移動，上顎前歯部の後方移動，アライナー矯正の弱点である患者依存性を可能なかぎり減少させることができる間接固定源の設計などを供覧し，みずからが計画した歯の移動をいかに口腔内で再現するかについて考察する。

DXを「装置を作るための技術」から「治療メカニクスを設計し再現するための診断ツール」へ進化させることが，今後の矯正歯科治療における重要な役割になると考える。

山口　修二（ドイチェ矯正歯科・大宮 院長）



1997年　九州歯科大学卒業
2001年　一般歯科医院開院
2010年　デュッセルドルフ大学大学院矯正歯科入学
　　デュッセルドルフ大学矯正歯科卒後研修助手
2011年　デュッセルドルフ大学医学研究センター博士課程
2013年　デュッセルドルフ大学大学院矯正歯科卒業
2014年　ドイチェ矯正歯科・大宮開院
ドイツ歯学博士（Dr. Med. Dent.）
ドイツ公認矯正歯科専門医
ドイツ歯科医師免許
日本3Dプリンティング矯正歯科学会・代表理事
SHU-lider 矯正研究会・代表

歯科矯正用アンカースクリューを応用した新しい歯体移動システムの開発

骨に固定源を得るスケレタルアンカレッジは，その治療効果が患者の協力性に依存せず，非抜歯治療の適応範囲の拡大，抜歯部位の選択基準，外科的矯正の必要性など，従来の矯正治療の新たな可能性を広げた。特に歯科矯正用アンカースクリューは外科的な侵襲が少なく，埋入後即時に過重させ，使用後に簡単に除去できるなど多くのメリットを有するため飛躍的に発展してきた。近年，歯科矯正用アンカースクリューのヘッド部にアバットメントを使用して矯正装置を確実に連結固定し，着脱可能なさまざまなシステムが開発され臨床応用されている。

口蓋部歯科矯正用アンカースクリューを直接的固定源として使用し，スライディング・メカニクスを応用した従来の上顎大臼歯遠心移動装置を改良し，金属積層造形技術を用い新しいデザインで考案した，より効果的な歯体移動が可能な上顎大臼歯遠心移動装置を開発した。さらに，歯科矯正用アンカースクリューと金属積層造形技術を応用した上下顎犬歯および小臼歯の歯体移動装置，拡大用スクリューを組み込み上顎急速拡大の併用治療も可能となる歯体移動装置，上顎犬歯の遠心移動後に上顎切歯のリトラクション（Two-step retraction）を効果的に行うことができる歯体移動装置を考案し，各装置が有機的に組み合わせ連動することが可能な新しい歯体移動システムの開発を推進した。

形態設計の自由度，適合性，剛性等の特長を有する金属積層造形技術，歯科矯正用アンカースクリューの最大固定，スライディング・メカニクスを応用し，新しいデザインや機能のアイデアで融合することにより，比較的難しいとされる歯の移動様式である歯体移動を効果的に行うことが可能となる。

本講演で歯科矯正用アンカースクリューを使用し考案・開発した新しい歯体移動装置および歯体移動システムとその臨床応用について解説する。